

取締役会の実効性に関する評価結果の概要

当社取締役会は、2025 年 9 月期を評価対象期間とした、取締役会の実効性に関する評価を実施しましたので、その評価結果の概要をお知らせいたします。

1. 評価プロセス

取締役会の実効性等に関するアンケートを 2025 年 9 月に監査等委員を含む全取締役 7 名を対象にウェブ方式で行い、回答を得ました。なお、実効性評価プロセスの客観性を高めるため、外部機関からのアドバイスを得ながら実効性評価を実施いたしました。

対象期間	2025 年 9 月期（2024 年 10 月～2025 年 9 月）
質問概要	<ul style="list-style-type: none">① 取締役会の構成② 取締役会の運営③ 取締役会の議論④ 取締役会のモニタリング機能⑤ 社外取締役（監査等委員含む）のパフォーマンス⑥ 取締役（監査等委員含む）に対する支援体制⑦ トレーニング⑧ 株主（投資家）との対話⑨ 各取締役自身の取組み⑩ 総括
実施方法	<p>無記名方式アンケート。 5 段階評価 30 項目+フリーコメント 10 項目。 (合計 40 項目)</p> <p>匿名性を確保するため、アンケートは外部機関に直接回答。 外部機関が、集計・分析を行う。 分析結果により、取締役会で審議する。</p>

2. 評価結果と課題の概要

当社取締役会は、選択式の設問における評価の平均値は4.2（前年と同じ）となったことに加え、フリーコメント、ディスカッションの内容も踏まえて以下のとおり分析・評価を行い、取締役会の実効性は概ね確保されていることを確認しました。

- ① 取締役会の運営は、審議項目数が前年の評価において課題と認識されていましたが、付議基準の見直しにより評価は改善しました。また、投資家との対話のフィードバックも、前年より高い評価となりました。
- ② 外部機関のクライアント企業との比較では、取締役会の構成、内部統制システム、社外取締役の経営監督、社外取締役間のコミュニケーションについて、高い評価となりました。

課題等検討事項として主に以下の事項が挙げられ、現時点での対応策を検討しました。

①取締役会の構成

現在の構成員と異なるスキルを求める意見がありました。

②取締役会の運営

報告事項は要点をおさえるべきとの意見や、資料提供の早期化を望む意見がありました。

③ 経営戦略、経営計画の議論

2022年から中期経営計画の策定が課題であるとの認識を共有しているが、今回の評価も低い傾向となった。近年開始したトラックオペレーティングリースや航空機リースなどのトラックレコードがでてきたことや、執行役員が参加する経営会議において、それぞれの取り組みについて議論が深まり、中期経営計画策定の機運は高まってきており、この動きを更に進めていくこととしました。

④ 取締役の指名やCEO等の後継者計画

本項目も実効性評価において、以前から課題と認識されてきました。後継者計画については、不測の事態への対応の観点からも必要であるとの意見でしたが、計画策定に向けた具体的な議論には至っておらず、中長期的な課題と位置付けています。

⑤ 取締役に対する支援体制

社内取締役と社外取締役で評価が分かれ、社外取締役において、情報提供や活動を支援する人員体制、内部監査部門との連携体制について低い評価が示されました。一方で、取締役会事務局による事前説明などは適切に行われているとの意見がありました。

当社取締役会は、以上の評価結果を踏まえ、課題と認識した各事項への取り組みを進め、審議を充実させることで、更なる実効性向上を図ってまいります。

以 上